

5 保護区設置とIPAS

1932年、フィリピン政府は国立公園プログラムを立法化し、40年にはその第1号としてHundred Islands 国立公園を指定した。その後政府は非常に多くの保全の試みを内陸や海の自然に対して行ってきたが、いずれも成功していない。一貫したプログラムの欠如という状況のなかでの自然保護は政府の政策やプランよりむしろ、民間や地方の戦略、もしくははわずかな推進者の手腕にかかっている。

政府の決めた自然保護地域はたくさんあり、そのうち71が公園野生生物局 (Parks and Wildlife Bureau) に登録されているが、正式のレンジャーが置かれているのはそのうちのわずかであり、放置されているところは貧しく家のない人々によって占領されてしまっている。

これに対して1988年、民間コミュニティー、国際的援助機関、環境天然資源省は、残された動植物の種の95%を救うという集中保護地区システム (Integrated Protected Areas System) を打ち出し、将来にわたる世代が自然資源を享受できるよう、保護地区の設立・運営・発展・保護・保全方法を模索している。

このシステムでは保護地区の分類分けを下のように提案している。

自然公園	Nature Parks
海洋公園	Marine Parks
野生生物保護区	Wildlife Sanctuaries
荒野地域	Wilderness Areas
景観保全区	Protected Landscape & Seascapes
生物的区域人類学的区域	Biotic Areas & Anthropological Areas
天然記念物	Natural Monument
資源保護区	Resource Reserves
自然生物区域	Natural Biotic Areas
その他の地域	Other Categories

アグサンマーシュ (アグサン湿原) は、野生生物保護区としての準備が進んでおり、指定地域図がすでに93年に作られていて、指定地域図は昨年用意されており、環境天然資源省当局は了解済みである。

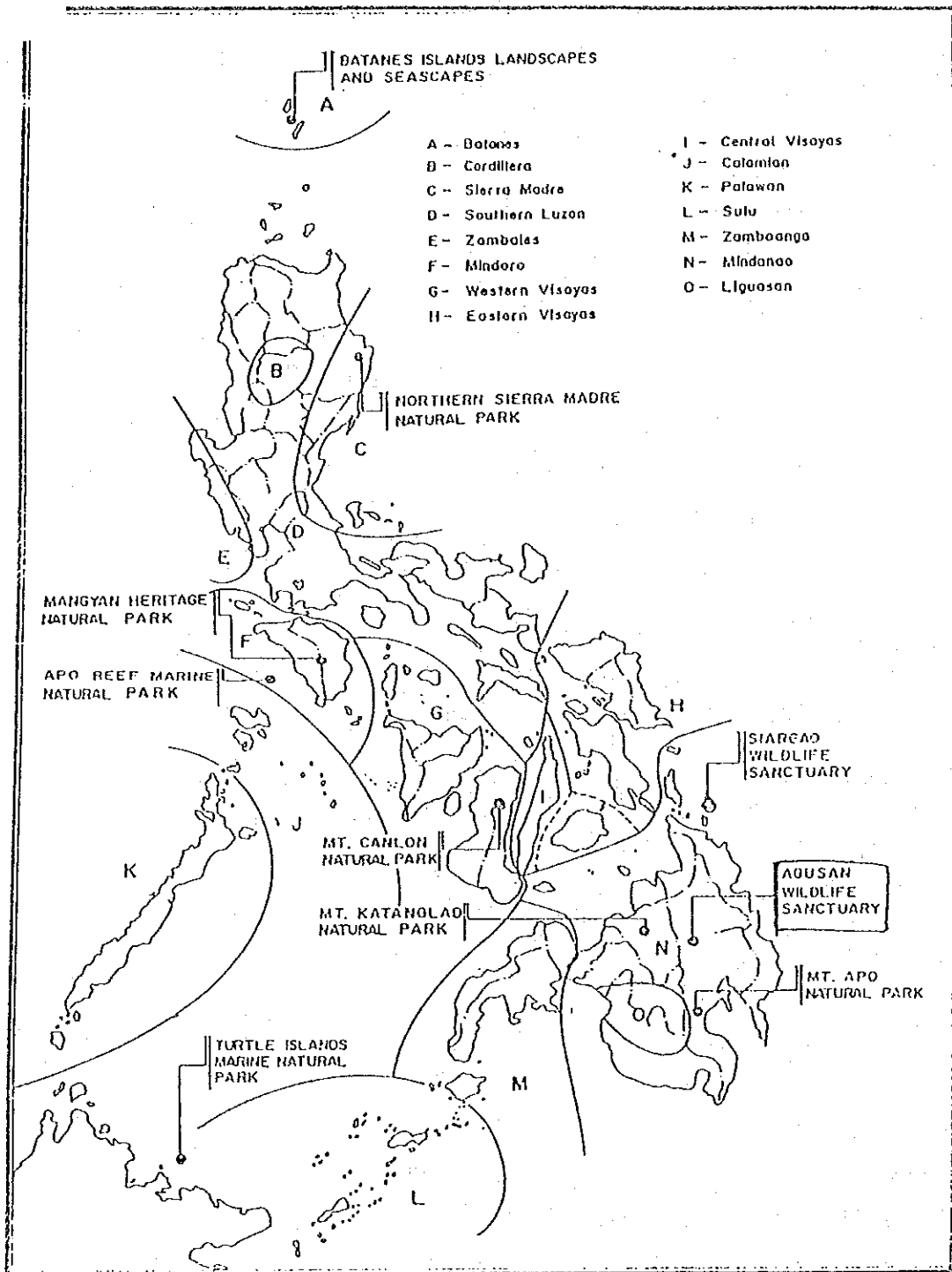
指定作業およびその後の保護管理活動に必要な資金の確保について、平成6年5月11日付で世界銀行とその受入先であるフィリピンNGO連合協会 (NIPA) との契約が成立した。

保護地域の指定にあたり、地元への周知と公聴会を実施する必要がある。

公聴会の結果、問題がなければ大統領令を得る手続きを進めることになる。

保護地域の指定後、保護地域管理委員会 (PAMB) が発足して、自然環境保全のための管理計画 (Management Plan) が検討されることになる。

GEOGRAPHIC LOCATIONS OF THE TEN SITES



6 フォローアップ前提3条件の履行スケジュール (94年5月31日付)

<CFIの94年8月までの活動計画>

<前提3条件>	<今までの活動実績>	6月	7月	8月
<p>(1) 保護区宣言 (保護区設置についての実質的進展の確認)</p>	<p>a) マンガオ湖</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティー・ガイダーが引き続きIEC活動を行う。 ・検討報告書(第一回)。 ・進捗報告書。 <p>b) アグサン湿原</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アグサン湿原の直接管理計画についての原稿の提出。 ・地域社会に対する公聴会の実施。 ・大統領府の保護区宣言の原稿の提出。 ・生態学的調査(第1回)。 ・状況報告。 	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>
<p>(2) (3) CFIのワニの利用計画およびパイロット・ファームのサイトの決定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パイロット・ファームのアクションプランと管理計画の内容確認。 ・日本人専門家に対してアクションプランの原稿を提出。 ・日本人専門家からコメントを比側に提出。 ・アクションプランの最終案。 ・運用規定の発行。 ・パイロット・ファームおよびその経営者の選定。 ・CFIでのパイロット・ファーム経営者の研修。 	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p>

ロジカル・フレーム・ワーク (調査前)

プロジェクト概要	指標	データ入手手段	外部条件
<p>上位目標 野鳥の繁殖技術の開発・向上を通じて、経済的・社会的利益の確保と地域社会への寄与を目的とする。</p>	<p>(1) 野鳥の繁殖技術の確立。 (2) 野鳥の繁殖技術の普及。 (3) 野鳥の繁殖技術の発展。</p>	<p>(1) 保護区の宣言がなされたか。 (2) 繁殖で収入を得た人を調査。得られた収入額を調査。</p>	<p>環境省(自然資源省)は、地域社会・地方公共団体(州政府など)や関連機関と協力して持続的に利用できるように努める。</p>
<p>案件目標 持続的に利用を通じた野鳥の繁殖技術の確立。</p>	<p>(1) R/Dに記されている野鳥の繁殖技術の確立。 (2) 繁殖技術の普及。 (3) 繁殖技術の発展。</p>	<p>(1) 研究・開発の結果。(論文の数など) (2) カウンタパートの研修活動の結果 (3) CIES登録、パイロットプログラムの準備が成されたか。</p>	<p>C F I におおける十分な適切なカウンタパートの確保がされる。</p>
<p>アウトプット (1) 野鳥の繁殖技術の確立。 (2) 野鳥の繁殖技術の普及。 (3) 野鳥の繁殖技術の発展。 (4) 野鳥の繁殖技術の確立。 (5) 野鳥の繁殖技術の普及。</p>	<p>(1) 論文の出版数。 (2) 論文の掲載数。 (3) 論文の引用数。 (4) 論文の査読数。 (5) 論文の閲覧数。</p>	<p>(1) 論文数・出版数。 (2) 論文の掲載数。 (3) 論文の引用数。 (4) 論文の査読数。 (5) 論文の閲覧数。</p>	<p>・ 機材が遅れずにサイトに到着する。 ・ 専門家とカウンタパートの相互協力と相互理解がなされる。 ・ 環境増進に資する。天然資源省に予算・管理措置がなされる。</p>
<p>活動 (1) 野鳥の繁殖技術の普及。 (2) 野鳥の繁殖技術の発展。 (3) 野鳥の繁殖技術の確立。 (4) 野鳥の繁殖技術の普及。 (5) 野鳥の繁殖技術の発展。</p>	<p>(1) 長期専門家8名。短期専門家3名。 (2) 長期専門家8名。短期専門家3名。 (3) 長期専門家8名。短期専門家3名。 (4) 長期専門家8名。短期専門家3名。 (5) 長期専門家8名。短期専門家3名。</p>	<p>(1) 保護区の宣言がなされたか。 (2) 繁殖で収入を得た人を調査。得られた収入額を調査。</p>	<p>環境省(自然資源省)は、地域社会・地方公共団体(州政府など)や関連機関と協力して持続的に利用できるように努める。</p>

ロジカル・フレームワーク (調査後)

プロジェクト概要	指標	評価結果	外部条件
<p>上位目標 養殖技術の向上を促して、経済的野生的利益の確保と地域の発展を目的とする。</p>	<p>(1) 野生ワニの保護。一保護区の確立。 (2) 地域社会への社会的利益の確保と地域の発展を目的とする。</p>	<p>(1) 宣言された保護区の数: 0 (2) 養殖で収入を得た人を調査。得られた収入額を調査。 (3) C.I.E.S登録は93年3月31日までに完了。</p>	<p>環境天然資源省は、地域社会・地方公共団体(州政府など)や関連官庁と協力して持続的にI.C.A.など日本側の保護を行う。</p>
<p>要件目標 野生的利用を通じたワニの保護を推進する研究の確立。</p>	<p>(1) R/Dに記されているワニの保護の管理・開発。 (2) 技術開発や技術移転。 (3) 技術的利用を通じた保護・管理計画の確立。</p>	<p>(1) 研究・開発の結果は十分である。 (2) カウンタパートの研修活動は十分進められた。 (3) C.I.E.S登録は93年3月31日までに完了。</p>	<p>C.F.I.における十分かつ適切なカウンタパートの確保がされる。</p>
<p>アウトカム (1) ワニの生息地動態の研究の確立。 (2) 野生的利用を通じたワニの保護の確立。 (3) 養殖技術の向上と繁殖技術の確立。 (4) 野生的利用を通じたワニの保護の確立。 (5) 野生的利用を通じたワニの保護の確立。</p>	<p>(1) 論文の発表数: 5本・出版数: 4部 (2) 論文の発表数: 0 (3) 論文の発表数: 0 (4) 論文の発表数: 0 (5) 論文の発表数: 0</p>	<p>(1) 論文の発表数: 5本・出版数: 4部 (2) 論文の発表数: 0 (3) 論文の発表数: 0 (4) 論文の発表数: 0 (5) 論文の発表数: 0</p>	<p>・機関が選れずにサイトに到着する。 ・専門家派遣が適切になされる。 ・専門家と相互に協力する。 ・専門家と相互に協力する。 ・専門家と相互に協力する。</p>
<p>活動 (1) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。 (2) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。 (3) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。 (4) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。 (5) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。</p>	<p>(1) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。 (2) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。 (3) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。 (4) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。 (5) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。</p>	<p>(1) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。 (2) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。 (3) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。 (4) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。 (5) 野生的利用を通じたワニの保護の研究。</p>	<p>・環境天然資源省による十分な親ワニの確保が必須である。(1種200個)</p>

8 暫定実施計画 (TSI : 和文) と技術協力計画 (TCP : 和文) - 当初5年間と延長期間 -

暫定実施計画 (TSI)

活動	1987年 (S62年) 456789101112123	1988年 (S63年) 456789101112123	1989年 (H元年) 456789101112123	1990年 (H2年) 456789101112123	1991年 (H3年) 456789101112123	
専門家派遣	計画					
	長期	12/1 念田 洋二 (アドバイザー) 12/1 関 洋一 (調整員) 12/1 杉本 正志 (養殖)	11/30 アドバイザー 11/30 12/16 (調整員) 11/30 (養殖)	11/30 福村 州馬 9/26 坪内 俊憲 (生理、病理) 7/24 古岡 秀文 (生化学)	8/7 (調整員) 佐竹 萌 (養殖)	
	短期	計画	千田 弘 (施設管理) 5/9 7/9	青木 良輔 (分類学) 8/28 10/7		斉藤 秀生 (剥製標本) 8/19 9/7 大塚 聡子 (骨格標本) 8/19 9/7 斉京 昭 (生態調査) 2/14 2/22 米田 政明 (生態調査) 2/14 2/27 佐藤 大七郎 (生態調査) 2/21 2/27
機材	供与機材	27,857千円 高圧コンプレッサー 増設機	27,850千円 マイクロバス 無線機器等	9,409千円 温度湿度記録装置 超低温フリーザー	9,539千円 恒温恒湿器 淹滅用ポンプ他	
	繰越			実績なし		
携行機材	800千円 ワープロ 計算機	948千円 解制用メス コンピューター	350千円 青磁器 実験器具	320千円 コンピューター	895千円 コンピューター 文庫	

活動	経過年次	1992年 (H4年)	1993年 (H5年)	1994年 (H6年)	1995年 (H7年)	1996年 (H8年)
専門家派遣	長期	計画 村田 隆一 (6-7/7) 8/1 8/14 坪内 俊彦 (生理、病理) 8/19 12/17 木村 新 (栄養、生化学) 8/10 佐方 啓介 (生態)	橋本 幸 佐竹 靖 木村 新 佐方 啓介	東一 (6-7/7) 8/19 伊作 (調整員) 靖 (養殖) 新 (栄養、生化学) 啓介 (生態)		
	短期	計画 金子 与止男 (CITES 登録) 11/16 11/30 斉京 昭 (資源、生態) 3/1 3/15 山瀬 一裕 (資源、生態) 3/1 3/15		孵化施設1名 派遣 (6月)		
機材	当年度 供与機材	○4,760千円 コンピューター 文獻	○15,500千円 大型動物用ワゴン ビュッフェワゴン			
	繰越 携行機材	600千円 コンピューター プリンター	3,000千円 コンピューター			

活動	1987年 (S62年) 456789101112123	1988年 (S63年) 456789101112123	1989年 (H元年) 456789101112123	1990年 (H2年) 456789101112123	1991年 (H3年) 456789 101112 123
C/P 日本研修			Mr. Patrick A. Regoniel (生徒) 3/27—4/21	Mr. Gerardo V. Ortega (繁殖及び飼育) 5/29—6/28	Mr. Alan Y. Barce (繁殖及び飼育) 3/5—3/29
			Ms. Rowena G. Acosta (生化学) 3/27—4/21	Mr. Mansuetto C. Sibala (繁殖及び飼育) 5/29—6/28	Mr. Nestor U. Venturillo (フニ繁殖) 3/5—3/29
			Isagani G. Sarsagat (繁殖及び飼育) 3/27—4/21		
現地活動経費	現地業務費1,318千円	現地業務費3,451千円	現地業務費4,079千円 実施計画諸費5,510千円	現地業務費3,609千円 実施計画諸費8,013千円	現地業務費3,449千円 実施計画諸費5,397千円
相手国側 投入実績	所長 1名 研究員 13名 職員 23名 計 37名	所長 1名 研究員 13名 職員 23名 計 37名	所長代行 1名 研究員 14名 職員 26名 計 41名	所長 1名 研究員 12名 職員 44名 計 57名	所長 1名 研究員 12名 職員 44名 計 57名
	ローカルコスト 3,353,930.00¥	ローカルコスト 7,967,000.00¥	ローカルコスト 9,335,600.00¥	ローカルコスト 8,787,905.00¥	ローカルコスト 8,787,905.00¥
調査団	巡回指導	巡回指導 2/7—12/15	計画打合せ 9/11—9/22	巡回指導 1/12—9/19	巡回指導 9/17—9/25
リーダー会議		倉田/東京 1/30—2/10	倉田/シガタ 1/22—2/5	福村/東京 1/31—2/8	村田/東京 1/31—2/6
調整員会議					
国内委員会					

無償資金協力概要

(1) 内容: 施設および機材

(2) EN時期: 昭和60年6月21日 (3) 金額: 17.6億円 (4) 完了時期: 平成6年8月19日

活動	予算年次 年月	1992年(H4年) 456789101112123	1993年(H5年) 456789101112123	1994年(H6年) 456789101112123	1995年(H7年) 456789101112123	1996年(H8年) 456789101112123
C/P 日本研修	Dr. Mona Lisa Jamerlan (獣医学) 1/17-2/16 Mr. Roy D. Bero (ワニ養殖) 1/17-2/16 Mr. Renato A. Corniel (繁殖及び飼育) 1/17-2/16	Mr. Ronnie Sumiller (ワニ養殖) Mr. Alan Tequillo (機材管理)	Ms. Gloria Malolos (候補) (栄養生化学) Mr. William Tabinas (候補) (ワニ養殖)			
現地活動経費	現地業務費10,770千円 (技術交換費2,000千円) 無償7577 10,500千円	現地業務費10,796千円 (技術交換費2,000千円)	現地業務費13,564千円(計画額) (技術交換費95千円)			
相手国側 投入実績	所長 1名 研究員 11名 職員 44名 計 56名 ローカルコスト 8,787,905.03¥	所長 1名 研究員 8名 職員 38名 計 47名(11月末現在) ローカルコスト 10,311,304.00¥				
調査団	終了時評価4/11-4/22 計画打合 3/5-3/13	計画打合11/8-11/16	終了時評価(5月)			
リーダー会議	村田/東京11-2/5	橋本/2/11-2/18(予定)				
調整員会議	幸/シドニー10/20-10/23					
国内委員会						

無償資金協力概要
 (1) 内容: 施設および機材
 (2) EN時期: 昭和60年6月21日 (3) 金額: 17.6億円 (4) 完了時期: 平成6年8月19日

技術協力計画 (TCP)

経過年次		1 年 目			2 年 目			3 年 目			4 年 目			5 年 目		
活 動	年 月	S62			H-1			H-2			H-3			H-4		
		8	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
I 協力活動		-----計画-----														
生息数動態及び生態研究		ワニ生息数、分布調査、形態検査、気象観測														
野生ワニ保護 (ワニ保護区)		保護区候補地調査、ワニ生息地調査、保護区プロポーザル提出														
ワニ人工繁殖		ワニ飼育頭数：76														
ワニ繁殖		ワニ飼育頭数：70														
ワニ飼育		ワニ飼育頭数：155														
ワニ飼育頭数		ワニ飼育頭数：314														
ワニ飼育頭数		ワニ飼育頭数：702														
ワニ繁殖事業推進		ミントロワニ人工孵化成功														
技術交換研修		チラピア、アヒル、ブライニー、マウス、ミオロギ地産														
広報及び訓練		C.F.I.ニュース刊行														
来所者数		来所者数：5,494 (769)														
来所者数		来所者数：26,985 (1,433)														
来所者数		来所者数：15,572 (1,722)														
経過年次		6 年 目			7 年 目			8 年 目			9 年 目			10 年 目		
活 動	年 月	H-5			H-6			H-7			H-8			H-9		
		10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4
I 協力活動		-----計画-----														
生息数動態及び生態研究		ワニ生息数、分布調査、形態検査、気象観測														
野生ワニ保護 (ワニ保護区)		保護区候補地調査、ワニ生息地調査														
ワニ人工繁殖		ワニ飼育頭数：1475														
ワニ繁殖		ワニ飼育頭数：2052														
ワニ飼育		ワニ飼育頭数：2052														
ワニ飼育頭数		ワニ飼育頭数：2052														
ワニ繁殖事業推進		ワニ人工繁殖及びハイロフトワニ人工繁殖														
技術交換研修		オーストラリアで実施														
広報及び訓練		タイ、シンガポールで実施														
来所者数		来所者数：14,827 (1,280) (4.10月)														
来所者数		来所者数：22,112 (2,196)														

9 カウンターパート定着状況—当初5年間で延長期間—

研究室名	氏名	配属時期	地位	1990 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12												
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
資源・生態	Mr. P. A. Reconiel	01/88	S. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Mr. F. A. Pentillas	03/89	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Mr. R. Lecha	11/91	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Mr. G. V. Ortez	11/87	OIC	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Mr. M. C. Sibai	11/87	S. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Mr. I. G. Sinsagal	12/87	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Mr. A. C. Banc	12/87	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Mr. R. D. Bero	01/88	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
栄養・生化学	Mr. W. L. Tobias	07/90	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Mr. R. Sumiller	02/92	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Ms. R. O. G. Acosta	12/87	S. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Ms. J. B. J. Geli	07/90	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Ms. B. Toquero	02/91	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
生理・病理	Mr. A. Fabellon	01/89	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Mr. R. Sumiller	02/92	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Ms. C. C. Malolos	02/93	S. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Ms. R. S. Elizeta	09/93	S. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
診療	Mr. R. Morada	01/88	S. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Ms. A. Mangitimos	03/92	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Dr. P. G. Ortega	11/88	S. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Dr. M. L. Jametian	02/91	S. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Ms. R. R. Villapa	01/89	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
研究課	Ms. S. Zerna	10/91	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Ms. C. Sunagayayay	05/92	J. R.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
	Ms. C. S. L. Melo	11/89	R. Head	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	

* 下線は現在勤務中 ** S. R. : Senior Researcher ; J. R. : Junior Researcher ; R. Head : Research Head ; OIC : Officer in Charge

10 フィリピン革業界の現状 (PHILIPPINE LEATHER PRODUCTION INDUSTRY)

International leather and skin update. Japan Tanners Association
from: Leather. (Asia Special) April - June, 1991

(1) The present Philippine leather production industry is comprised of approximately 100 enterprises, the majority situated in the cottage industry area of Meycauayan. Large scale production factories are limited to seven companies in an area surrounding Bulacan Province, employing 60-70% of the total industry labor force.

Recent operations are said to be 10-30% of full production, with the rest lying idle. The full production capacity is estimated at approximately 46.5 million square feet in product leather and 800 tons in sole leather. The product leather output of 1982-87, however, has been almost at a standstill at 14 million square feet. This amount is way below domestic demand for leather goods and shoes. Last year's production in the Philippines² tannery industry was 18 million square feet.

(2) It is also felt that official assistance in research and development in the field of tanning is left behind. The Animal Secondary Derivatives Production Training Center under the Bureau of Animal Industries, Department of Agriculture, offers courses in utilization of secondary derivatives including leather. So far, this is the only government supported institution that could be used in the industry. As for training in machinery operation and leather production, tanners depend on international machine distributors or need to seek funds for overseas training. There are only two or three large scale leather enterprises that have sufficiently qualified technical managers and leather production managers.

According to Filipino tanners, without government support the leather production industry has slim chances to survive as the important privileged supplier to the leather goods industry.

JICA